京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

吉會鐵道論

▲滿洲の面目一新せむ

今回日清合辦の下に敷設さるべき吉會鐵道に關し此に關係を有せる某工學博士の語る所に依れば同鐵道工事の難易に關しては實地踏査の上ならでは判明せざれど清國方面は如何にも連山重疊たる有様にて非常の難工事なるが如く思はるれども事實に於ては韓國方面即ち現に輕便鐵道の存する

▲會寧清津間寧ろ困難 なるべしとの事なり即ち今同執るべき道筋は多少の迂回を免れざるも舊官道を沿うて額木索を過る方最も平易なるべきが今假りに該線路を執るとすれば第一に遭遇するは松花江の大流にして之に架する鐵橋は全線中の最大橋梁なるべし更に此れより少しく進むに從つて老爺嶺の險に當るも一度之を踰ば拉麻河の左岸に沿ひ約四十哩の間は一路平坦にして農耕開け人家割合に稠密なる地方を進む事となるべく更に窩集站より額木索の間廿餘哩は河に沿ひ谷に臨み所々工事に困難なる處無きに非るも又平野其半はを占め小驛所々に點在しつゝあり道は二に分る北東するものは即ち寧古塔を經浦潮方面に通ずるものにして南東するものは即ち間島を過り會寧に通ずるものなり而して此間島線は間島の境に接する邊り迄は所謂牡丹江の流域にして其中間に在る揚家店より同方面の主要驛たる敦化城迄は約七哩なるが此地方又一帶に平坦の模様にして此れより松花江と圖們江との分水脈たる哈爾邊嶺に接近するに至り漸く險阻を加へ此れより間島を過りて清津に到る間は一帶に工事困難なるべし今此線に依りて按すれば全延長約二百五十哩を超ゆべく工費も三千万圓を出づべきが去れど此線にして完成すとせば

▲滿洲の面目は一新 すべく推察せらる從來長春より哈爾賓を過り烏蘇里地方又は浦潮に出でし貨物は吉會線の額木索に出で寧古塔に出づるか又は清津より出づる事となるべく即ち一種の併行線の形となるを以て東清鐵道は多少の打撃を受くべきも而も該地方より同方面に出づる物貨は多額ならざるを以て其打撃も大ならざるべし而て其の

▲滿鐵の幹線に對する影響如何 と察するに清津よりするは大連よりするも我國には近くなるを以て大連亦打撃を受けざるべからざるに似たるも滿鐵幹線の主たる收入は貨物にては大豆旅客にては山東省よりの移住民に依るものなるを以て共に吉會線の開通に依つて影響を受くべき底のものに非ず加之ならず吉會線の全通と安奉線の全通とは相並びて南北滿洲の無限の寶庫を開拓し土民消費力の增加を招き結局滿洲は長江沿岸の地と相並び支那に於て最も殷繁なる地方となると遠きに非るべく一旦其曉に逢せば其利益を受くるは豈獨り滿鐵のみならんや京奉線の如き東清鐵道の如き皆之が利益に均霑すべし殊に北滿の地は南滿に比し頗る豐饒にして無限なる未開拓の富源を有すと稱せらるゝを以て吉會線の開通は蓋し滿洲に一新面目を與ふるの動機たらんかと

△米價の前途▽

先日一時品不足の爲め石に付き二圓五十錢方の騰貴を見たるが這は從來餘りに廉なりし爲め地方よりの回米少く品不足を生じたるに由るものなるが其後追々回米あり各倉庫とも品潤澤となりたると且つ一方には農作も豫想程には甚しからず漸次新米の出づるに至らば下落を見ることゝなるべく目下の相場は上白十七圓四五十錢位なるも日本内地にても天候も順に豐作の見込なれば遠からず平調に復すべしと大豆も上五圓六十三錢中五圓四十二三錢位なるが大阪市況好景氣にして出廻り增加せしと新物の出づるに連れ漸次下向きとなるべき氣配なりと

俳句

●第五回六句集　すみれ會

▲夏季混題（結、涙）　むら判

土用干遺物にしのぶなみだ哉　松月
逝し子に蚊帳の間餘す涙かな　天心
虫干やなみだのたねの迷子札　中庸
夏野十里柩見送るなみだかな　松月
雨乞ひや民の涙にくもるそら　同
里歸り汗に紛らすなみだかな　月哉
母衣蚊帳の主を問はれて涙哉　昇月
心太からしの泣すなみだかな　淡水
夏瘦やなみだ七分のいろ懺悔　月哉

◉秀逸◉

なさぬ母にかくす涙や土用干　月哉

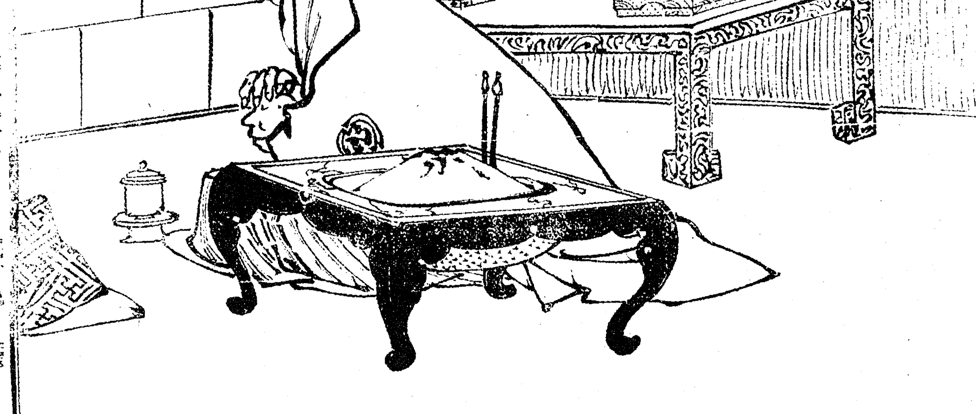
◉自句◉

稀に逢ふ明け易き夜の涙かな　むら

中山大納言

第四十七席　桃川燕演玉

右「ホヽウ豫て承りました山縣大貳先生、失禮ながらあなたの御舍弟、それはどうも御同姓ではいらつしやるが御舍弟とは一向存じませぬで居つた、然らば是非大貳先生へ伺ひたい、御添書を願ひたい　齋『宜しい早速認めて差上げる……何時御立ち　右『ヱー善は急げ、兩三日中に出立を致す』　それならばと云ふので、そこで山縣齋が書面を認めて呉れた。藤井右門大いに喜んで只今迄召使ひましたさと云ふ妾、是は甲府の石和の者でございます　右『扨さとや　さと『ハイ』　右『長らくお前に面倒を見て貰つたが、私は是から江戸へ出立をしなければならぬ、お前を伴れて行くと云ふ譯にもいかぬから、お前には暇を遣はす、是は手當の金子、此家財は皆お前に上げるから、之をお前が持つて行くとも、賣つてしまはうとも好にさつしやるが宜い、宜いか」と大概の女なら「どうか旦那様の御供をして共に何國迄も參りたい」と言ふべきだが、此れさと云ふ女が之を聽くと大層喜んで　さと「おやまアさうでございますか、旦那様は江戸へ入らつしやる、江戸と云ふ處は大層繁華な處、定めし好い容顔の婦人も澤山居りませうから、又御意に叶つた女を御寵愛を遊ばすやう、永々御厄介に相成りました、左様なら是は悉皆私が戴きます、有難う存じます」と情に薄く慾に厚いおさと云ふ女が、家財を悉皆貰つたので大喜び、目欲い物を一つに纏め、不用な物を叩き賣つて此奴はすたこら石和へ行つてしまつた、此方は緒方庄八と云ふ彼の家來に、要用の品を包まして脊負はせ、齋に別れを告げて甲府を立つて江戸へ乗込んで來た。八丁堀の長澤町に來て見ると、成程立派な構でございまして山縣大貳と云ふ當時江戸の八百八町で人に知れた大先生、口でこそ千人と云が千人以上の門弟と云つては大したものだ當時大貳は諸大名へ出入りを致しまして、軍學兵法の御指南をする、又は旗本の次男三男などが武藝の稽古に來る、中には漢學の稽古に來る人などもあり、有福な町人は茶の湯でございますの、或は活花、總て遊藝は何でも知つて居るどいふ所から、雜多な人が大貳の門に出入る、大分富貴な暮しをして居る　右「お頼申す、お頼申す……　○「ドーレ」取次が出て見ますると、まだ年は若いが立派な人物、昔の宮本武藏と云つたやうな風采で玄關に佇んで居る、荷物を擔いで一人の若侍其後に佇んで居るのは供のやう　○「ヱ、何れから御尊來　右「拙者は甲府から罷越した、御主人へ是をどうか御達しを願ひます」書面を出す、奥に入つて大貳に見せる、一通り見まするど、大貳書面を引攫んで玄關に立出でまして　大「是は是は藤井先生、能うこそ御尋ねに相成つた、拙者大貳でござる、兄の齋の書面、委細承知を致した、兎に角此れへ御上り下さい」と茲で草鞋の紐をさく〳〵解き、奥へ通つて先づ初對面の挨拶「當分拙者方へ御緩り御逗留をなさい」と一室を貸して呉れる、其處へ右門主從は足を留めて、是から大貳の様子を、何んな人物かと見ると、成程どうも人物も宜いが業が出來る、右門と云ふ人も充分出來るから、大概な者には驚かないが、大貳には少しく右門も驚いた、是なら己が先生と敬つても恥しくないと云ふ。五六日過つて　右「扨山縣先生、御舍兄齋殿から御高名を承知して御尊家へ出ましたが、イヤどうも實に驚き入つた、御主人、あなたは博學な御方、殊にあなたは殊の外御相が宜い、拙者は深く何も出來んが、都に於て相學を學び、此はマア大言ではござらぬが、易學相術に於ては一歩も人に讓らぬ考、先生の御相を拜見をしたが、實にどうも宜い御相、あなたは三公の位に經上つて更に差支のない方、今日斯かる御生活をなすつて居る、實に勿体至極もない、と云ふのが今日は泰平の世の中、先生の世の中に出た時機が悪かつた、元龜天正の昔に世の中に現れたらば、あなたは三公の位に御昇りなさる貴人の相を具へて居らつしやる、イヤ拙者は決して阿ね諛ふは嫌ひだ、武士として巧言令色は恥づべき所、決して詐りでない大地を打つ槌は外れると雖も是ばつかりは間違ひはない、あなたは實にどうも貴人の相を具へて御出でなさる」とう〳〵右門が話掛けました、そこで大貳がにつこり笑つて　大「イヤちと先生が拙者を御賞美過ぎる、併し拙者も生涯是では終らぬ考だ」と段々互ひに意中を打明けました。



東京電報

▲北白川妃宮御姙娠　去る四月御成婚あらせられたる北白川宮妃周宮房子殿下は御姙娠五月の由に漏れ承はる

▲兩陛下の御滿足　周の宮房子殿下御姙娠の事岩倉宮相及香川皇后宮大夫より本日奏上し兩陛下御滿足あらせらる（同上）

▲來年度總豫算の方針　明四十三年度歳入歳出總豫算編成に關する大藏省の査定方針を聞くに左の如し

一、日本政府より韓國政府に對する貸付金を增加する事
二、必要缺く可らざる繼續事業の外新事業費を削除する事
三、一般官吏を通じ三割の增俸を行ふ事
四、皇室費を增加する事
五、國債償還額一千萬圓を增加する事

▲在間島の日韓人　清領と決定したる間島に於ては今後日韓人の居住を許さるべく韓國人にして從來不動產を有し居住せるものは既得權として例外にれかる、日本人は開放地以外旅行權なくして旅行するを得る事となれり（同上）

▲韓株の割當方針　韓國銀行株募入割當に關しては株主中一株申込者多き時は手數を要するを以て端株若干は二百九十四株口上の募入者に配分さるべしと（同上）

▲米國領事の出發　京城駐在米國領事サンモシス氏は本日橫濱港出帆歸國の途に就けり（同上）

▲間島領事館新設費　外務省は今回清國との協約に基づき間島の龍井村、局子街、東盛湧、百草溝に於ける領事館を新設することゝなり其經費貳萬圓を計上したり（同上）

▲間島裁判制の內容　日清協約施行後に於ける間島裁判制は回審制を採るも日本國領事の裁判の一員たるに非ずして清國の裁判に容喙し得るの權能あるのみなり（同上）

▲韓國の領土擴張　韓國の領土は今回の日清協約により圖們江上流に及べるものなれば非常に擴張せられた譯なり（同上）

▲日清協約議事錄　今回締結せられたる日清協約面に規定なくして議事錄のみに擧げられ後日の證左と爲せるものあり其事項左の如し（同上）

一、天寶山の採掘は從來の儘とす
二、錦州よりチヽハルに至る清國敷設の鐵道に對しては日本は異議を述べず
三、鐵嶺以北の南滿鐵道線より洮南府に至る鐵道の要求權は日本に保留す
四、法庫門鐵道敷設の際は材料を日本に仰ぐべし
五、安奉線陳相屯以西は從來の儘とす

▲步兵操典の配布　改正步兵操典は來る十月陸軍大臣より改正したる詳密なる理由書を附し各聯隊に配布す可（同上）

▲步兵操典の改正　改正陸軍步兵操典は來る九月下旬迄に裁可發表さるべし（同上）

▲在韓憲兵給與令　韓國駐屯憲兵給與令近日發表の筈なり（同上）

▲佐々木侯の病氣　樞密顧問官佐々木高行侯鎌倉別莊にて腸胃加答兒に罹れり老體の事とて一般に憂慮し居り（同上）

▲侍醫頭の御差遣　佐々木樞密顧問官病氣の趣天聽に達し特に岡侍醫頭を鎌倉に御差遣遊ばされたり（同上）

▲日糖事件の公判　日糖事件に關する醜漢の上告公判は十二日に決定したり判決は十一月中旬なり（同上）

●龍山民團紀念日　來る十五日の龍山民團法施行紀念日には盛大なる懇親會を催し裝飾假裝行列等の餘興をなし市中を販

●迷子の保護　去る八日午後三時頃本町三丁目第一銀行前に三歳位の女の子が迷ひ居るを同派出所の巡査が認め南部署へ同行を召喚して將來の注意を與へ引取しめたり

●天氣豫報（自九日午後六時至十日午後六時）
北の風晴

●配達出帆　午後七時三十分

雜報

●清津免稅問題成行　清津港を經由して間島又は渾春地方へ輸入する物資の關稅免除法律は曩に本紙が報道せる如く外務省の異議に接し其施行の行き惱めるものにして則ち純然たる清領渾春と間島所屬未定として現に日清懸案中なりし間島とを同一視せる韓政府の輕卒に依るものなりしは今や當局者と雖も既に明言するに至れり然るに今回日清新協約成立し間島問題も茲に解決せられたれば該法律施行の上に一大故障たりし外務省の異議も全く消滅し何等抵觸する處なきに至れるを以て至急該法施行規則を決定し近々度支部令を以て發布せらるべし而して此結果韓に外務省當局者が公言せし東電の如く清津港の將來は頗る多望の位置に進むを得べしと云ふ（電通）

●理事廳の增設說（間島領事を兼任す）　日清協約に依り間島に於ける現統監府派出所は撤退せしめ領事館を設置して日韓人の保護を爲さしむる事となれるが該地は韓國北韓とは密接の關係あり是を經濟上より見るも社界的交通の上より見るも他の外國領事館所在地とは同一視し能はざる事情あり故に統監府にては同地駐在領事との間に特別の關係を保持するの便利なるを認め其希望を外務省に具陳したるに同省も贊同する處ありたれば結局北韓某地に理事廳を新設し該理事官をして間島領事と兼任せしむべしと而して新設理事廳の地區は目下選定中

●下野觀光團員の着京　下野新聞社主催栃木縣實業家滿韓觀光團三十四名外隨員三名は一昨夜南大門着の列車にて入京し不知火原金の兩旅館に分宿したるが停車場には漢城府民會、居留民團、商業會議所議員、韓人觀光團員、各新聞社員通信員等無慮千余名にして漢城府民會にては特に停車場前に球燈アーチ等を作り韓國軍樂隊を以て之を迎へ一行の着するや休憩所に於て漢城府民會長俞吉濬、漢城府尹張憲植、京城日報社長大岡力氏は一行に對し歡迎の辭を述べ一行の代表者たる下野銀行頭取矢板武及日本醋酸製造株式會社專務取締役加藤昇一郎兩氏の答辭あり一同車を列ねて夫々旅宿に入りしが近頃になき盛況を極めたり同一行は栃木縣の重なる實業家のみにて滯在中の旅程は左の如し

▲九日　午前統監府、統監邸、居留民團役所、午後市內觀光、同夜七時より在京栃木縣人主催歡迎會
▲十日　景福宮、昌德宮等參觀、正午景福宮慶會樓にて漢城府民會の歡迎會
▲十一日　午前仁川行同夜同地より直行平壤に向ふ

●昨年度韓國紙の產額　隆熙二年度韓紙の輸出額は千六百九十二擔價額六萬八千七百餘圓にして一ヶ年の產額は大約一萬五千塊（一塊二千枚凡そ四十斤）に達し國民需要の大部を充し居れるが近年日本及外國紙の輸入年と共に增加し昨年度の如き輸入額五十六万七千餘圓に上り韓紙の販路を奪はんとしつゝあるが清國輸出向としては毛皮の裏張、車の蔽、包裝、窓張、養蠶用、團扇、紅蔘包裝用等に供せられ堅牢なる紙質は大に清人の嗜好に適せるを以て諸種の改良を加へば將來輸出を增加せしめ得る見込あり目下研究中の由なるが今同紙の輸出港は仁川、釜山、元山、城津、新義州にして仕向地は日本、支那、露西亞なりと

●滿洲の韓米需要狀況　日露戰爭後在滿日本人の激增に連れ米の需用著るしく增加したるも滿洲にては僅かに陸稻を產するのみにて日本人の嗜好に適する粳米は殆んど產出せざるを以て何れも外國或は上海地方に供給を仰ぎ居りしが韓國米は價格の低廉なると比較的品質の良好なる上に地位の接近せる等に因り近來は滿洲輸入米の大部分を占むるに至りしと今大連營口及び安東縣に於ける米の國別輸入額を表示すれば左の如し

國別	四十年 數量	四十年 價格	四十一年 數量	四十一年 價格
日本	不詳	三三、一〇一圓	二二六、五五一擔	一九〇、〇三〇
朝鮮	同	九七七、六〇九	一〇〇、四八六	九〇二、七四四
支那	同	二、六〇二	一〇八	三、七〇〇
計	同	一、〇一三、三一二	三二七、一四五	一、〇九六、四七四

●撫順炭の韓國輸入額　撫順炭を始めて韓國に輸入したるは昨年十二月にして爾來輸入量六千七百五十六噸價格五萬〇六百六十四圓なるが重もなる用途は鐵道用にして一般の需用は未だ僅少なるが品質は他の混合物なく燃燒容易なるは九州二等炭に匹敵するも火力に於て劣り而も價格は之と同等なるを以て評判餘り宜しからず從て日本炭の販路に影響する如き恐れなしといふ

●群山地方邦人所有地　邦人の農事經營者は夙に錦江流域の沃野に着目し一時爭て該地方の土地に放資する有樣なりしが昨年度の調查に係る全北忠南兩道に亙る邦人の買收地總額は水田十四萬〇三十六斗余落、畑地一萬二千九百十七斗余落、陳田芦田荒地二萬〇六百廿五斗落余、山地九十二鹽田七百九十九個にして斗落を日本反別に換算するに田畑のみにても優に一萬町步に達すといふ

▲不法無稅通關（統監のれ荷物）　近々內親王殿下が御降嫁相成るに付其御婚禮に要する貴重品調度の爲伊藤式部官は歐洲に派遣さるゝことになつた、一寸考へれば如何に貴重品でもソレシキの事に宮內省が態々式部官を遠國に派遣せずともパリーにもロンドンにもベルリンにも我大使館が在ること故ナゼ買入方を其方へ命じないかと云ふ疑問が起る、而るにソコには曰く因緣があつて此れ使には宮內官が自ら望んで否運動しても出て行くのである、今度の博邦氏の如きは養父君の顏もあるから斷じてソンナ事はせまいが是迄出掛けた宮內官の中にはパリーの商人から買上品の手數料をせしめた上東京の某寶玉商と結託して多數の寶玉を仕入れ御用品と混じて本邦稅關を無稅通關して奇利を收めたものもあつたソウである、ソレトコレトは事變はれど前統監時代にもあつた事で今も尙盛にあるらしい事は某々の人々が統監御用の荷物と稱して多數の書畫骨董品を內地へ輸出し亦當地へ輸入することである、勿論統監御用の荷札が附いて居るから稅關官吏は拔荷と知りつゝ午殘念無稅にて通關を許す某々等はソレを良い事にして奇利を博す其爲すところ恰も歐洲派遣の宮內官の如きものである、思ふに前統監にしても亦現統監にしても自家に接近する狡譎の徒が斯る曲事を行ふことを知らるゝ筈はない、而らば之が取締の責任者は何人であるかと云ふにソレは統監の秘書官である、統監の名を濫用して國法を無視し私利を營む徒は秘書官に於て是非共取締つて戴きたい御用とあらば疑はしき人物の氏名五六は何時でも申上ると仕よう。

●三南鐵道と公州邦人　公州日本人會に於ては本月四日議員及び重立ちたる有志者會合し日本人會長を撰擧すると同時太田居留民の對三南鐵道の運動に對し是非共鳥致院基點說採用を遂行せしめんがため新任會長加賀美守同委員山田求合田澤太郎牧野秀次眞田好夫の諸氏を委員に推擧し極力對抗運動を開始すべしと

●清韓の舊借款と其額　清國電報局及招商局より借受けたる韓政府の舊債に就ては清國總領事の請求に依り統監府にて調查中なるが其要求金額は既報の如く數次返濟せる殘額即ち招商局の分十一萬兩餘及電報局の分一万九千兩餘にして是に利息を加算せるものなる由

●東拓金融部擴張決定　東拓會社の金融部は拂込高五分の一を制限とし其以外を超過し得ざるは甚だ究屈なるより之れが擴張の計畫あることは屢次報導せし如くなるが東拓の意向は全然其制限を開放する意見なりしも其筋にては拂込額三分の二まで擴張を許可することに內定せりと

●豫算編成の方針　各道來年度豫算編成の方針は事業勃興に伴ふ吏員の增員官廳舍の建築郡衙移轉等避く可からざる者に止むる方針にて尙地方をしての實質的行政に關する者は地方費に計上すべき者なりと

●地方行政の調查　地方行政狀況の如何を知悉するとせざるは施政の上に多大の關係あるを以て內部にては來年度の豫算に之が調查費を計上する方針なりといふ

●地方費課目調查　地方費課目加率は各道より既に提出し來り澤田地方局長も歸任せるを以て目下之が認可に關し調查中

●三角航路は難產　清津元山敦賀間を航行せしむべき三角航路は統監府にては北韓經營の爲め熱心其經營を希望し居り既に四十三年度豫算には八萬圓の補助費豫算を計上せるも元來該航路の目的は一清津又は元山港に非ずして遠く其奧地方の經濟的關係を考查せざるべからず然るに現在の北韓內地及渾春間島の各地方は果して斯かる航路の必要を促がす迄に進達し居るや否や疑問なり尤も統監府の積極的政策より必要なりとすれば這は別問題なるも單に經濟的見地より打算すれば該航路は左迄必要急施を認めずとの論遞信省側に勢力あれば結局四十三年度には成立覺束なかるべしと（電通）

●最近京城戶數と人口　民團役所の調查に係る八月末京城居留民の戶數は七千四百六十戶にして人口二萬六千七百四十三人なるが內男一萬四千八百四十三人女一萬千九百八人なり而して之れを七月末に比すれば戶數百〇三戶人口六百六十四人內男三百八人女二百五十六人の增加を爲し出生男兒三十五人女二十八人死亡男十八人女二十五人なりと云ふ

●民團の借用地と市場　京城民團が龍山の軍用地に於て借用せる三角地點は今般之れが繁榮策として午前の內は魚菜市場を開き午後は夜店及興業物を爲さしむる筈にて前者は一兩日の內より開始し後者は再昨夜より開業し居れるが頗る殷盛を極め居れりと

●本山大每社長の歸阪　過般當地を通過せられたる大阪每日新聞社長本山彥一氏及大庭景秋氏は西伯利亞地方巡遊を了へ去る六日無事歸阪せられたり

●觀光團の統監府訪問　一昨八日入京の栃木縣觀光團代表者は今九日統監府に石塚長官を訪問せり

●國民中學新學期　尾崎行雄氏が七ヶ年の經營其効を奏して國民中學會は本邦唯一の通信學會たるに至れり是れ其組織の敎育的なると敎授の懇切其極を盡くせるとに因らずんばあらず講義錄と稱するも普通書籍の台本に過ぎざる者比比皆然る中に獨り國民中學會講義錄のみは文部省中學校令に準據して學科の配置はた學期の區劃等を正し一學期六ヶ月の講習を以て中學校一學年に該當するの學力を得せしむる組織となせり目下第十二回新學期を開始し入會金全免の特典を與へ講義錄は第一號より新に發行して頒布する由なれば中途入學者に比して至大の便あり希望者は東京駿河臺なる同會事務所に宛て申込まる可し

●虎疫と滊車檢疫　新義州方面の虎列拉病益々猖獗なるを以て新義州宣川地方よりの乘客に對し同地に於て防疫を爲し來りたるが尙一層嚴重にすることゝなり南大門停車場に於ては同方面の切符を所持する者に對し檢疫的防疫を行ふ由

●憲政大臣の出發　去る八日午後南大門着入京せし清國考察憲政大臣李家駒氏の一行は今九日午前八時十分發馬總領事に見送られて下仁し歸清の途に就きたりと

●博覽會と委員會　日英博覽會委員は昨日午前十時より統監府へ參集出品物蒐集に關する件及諸般設備上の件を協議せり

●統監夫人の入京　曾禰統監夫人てる子は既報の如く九日夜南大門驛着入京せり右に付國分秘書官は水原迄出迎へたり

●佛國軍艦の入港　佛國極東艦隊所屬巡洋艦アルゼルトは昨日午前仁川に入港したり同艦は來る十一日釜山に向ふべしと

●佛艦長統監往訪　アルゼルト艦長デルゾン大佐は本日總領事帶同、曾禰統監を往訪し歸途小松外務部長を訪へりと云ふ

●京仁懇親會延期　來る十一日仁川八阪樓にて開催する筈なりし京仁有志の懇親會は無期延期となりたりと云ふ

●義州の虫害驅除　義州種苗場に於て陸稻螟蟲發生し直に之が驅除方法實行中

●ハリス夫人の訃　維新前より幾十年の久しき間內地に於て將た米國に於て我同胞間に基督敎的德育を布き兼て學生の爲に大に盡力する所ありたる現韓國メソヂスト派監督ハリス師夫人は七日午前東京青山學院內假寓に於て永眠せられたり因に夫人は我國學に通じ特に和歌を良せられたり

●西島中將留別宴　近く歸東すべき西島前六師團長は來る十一日午後六時文武高等官を花月に招待し盛大なる留別宴を催すと

●麻浦渡船の收入　龍山麻浦に於ける現在渡船の數は五十二隻にして一船に付き一日の收入額平均十八九圓位なりと云へり

●軍糧米購買落札　陸軍糧米購買は仁川力武に落札一石十四圓九十五錢にて三百石次米同十四圓〇九錢にて百五石を購入さる

●林大林署長入京　秋田縣大林署長林駒之助氏は去る八日入京し天眞樓に投宿せりと

●佐竹秘書官微恙　佐竹統監府秘書官は微恙の爲め一昨日より引籠り治療中なりと

●能島進氏の轉勤　日本電報通信社の能島進氏は今回名古屋支局長に轉勤したりと云ふ

公人私人

▲宮谷公雄（新民屯領事館書記）八日入京
▲水間春明（憲兵少佐）同上浦尾へ
▲コンプライト（米國人宣敎師）同上佐藤

近事片々

▲秋氣　頓に加はる試に銷を門外に曳け野の末山の端迄も七草は今を盛りと咲き揃ふ
▲桔梗　苅萱女郎花は淸楚として詩人を迎ふるが如し尾花の如きは頻に手を翳して招く
▲漢城　人士は兎角に靑樓の樂に耳耽け過ぐる希くは少しく門外の秋色を探り心を洗へ
▲一進　會と大韓協會との合同は漸次步を進むと御用紙邊は喜び居るも些と買被居る
▲兩者　の合併大局に於て何の影響なし斯る朋黨的結社は寧ろ個々分裂破滅を可とす
▲保護　政治大局の上よりせば兩者共に解黨するを可とす政黨の出現はまだ々々早し
▲東拓　は愈々其居を京城と定めて其敷地を購入せんと而も其裏面に何か不良の評有
▲裏面　の事情は片々等の知る所ならざるも京城に居を据へるに至りては先づ結構也
▲事業　捗らず事務擧らず要するに之れ根本方針を誤れる爲め重役等最早氣付て可也
▲如何　に百年の經營也とも何時迄愚圖々々して居る必要なし宜加減に悔悟せよや喝
▲統監　政治の綱紀何となく弛緩せるの模樣と評するものあり果して斯る傾向あるか
▲燈臺　基暗し片々等は曾禰統監の下に此事なきを信ず併し燈の在所火有評言不可捨
▲弛緩　とは何を意味するか必ずや進步の意味ならず識者は大に注目するを要せんか
▲陽伯　曰く屬僚は上官の機械責任名譽なきを以て秀才來らずと然り眞骨頭は逃出す
▲人間　は責任を持たせ自由手腕を揮はしめば存外の仕事する者干涉制肘は進步の敵
▲桂侯　燒打當時を回顧して媾和條約の不評判は戰勝の報を誇大にしたる爲と後悔す
▲如何　に後悔したり迚率相たる者が斯る弱音を吹は人心を奮勵せしむる所以に非ず
▲自己　の懺悔の爲に戰勝を誇大に報せり抔放言するは愼重を缺く矢張凡夫は情なし
▲社會　主義者の墮落は愈々見限果てたり共妻主義を實行し決鬪をなす杯犬にも劣る
▲斯る　奴輩の集合にては社會主義者は漸次自滅也是では富豪長夜の眠は醒まし得ず

▲相談の相談▼
（何でも御相談に應じ升）

◎**記者より** 普通教育ある廿五歳迄の男子にして多少文才ある人を雇ひ入るゝ所あり希望の方は履歴書を本係宛郵送せられたし但し多人數入用の次第には無く一人丈けの事なれば至急申込むべし給料の如きも當分は少額なれば現在相當の地位ある人は此れは上等と飛び附く可らず失望すべければ也、而して雇入先は堅實なり從つて市内に相當保證人あるを可とす、

◎**問** 私は本年三十七に成りまして十二年前今の所天と夫婦に成りまして十歳を頭に八歳と五歳との三人の兒を擧げまして皆壯健で居ります、所天は四十四歳に成りますが此の春頃から惡いなぐさみを覺ねまして夫れにつれて女狂ひも致します樣子があります、所天の職を申すのは許して下さい、デ若しも之れが知れでも致しますると第一子供、第二は國許の御兩親に對しては自分逹の身上です、何う致しましたら此れが止むで御座いましょうか御相談致します失禮ですが名を書きません（無名女）

◎**答** 外の道樂と違つて此の道樂は他人の意見位では止みませんよ、據なければ私の方から忠告して上げます、御身分に障る樣な事はせぬから、懇く御意見なさつて聞かれない塲合は住所姓名を明記して相談係宛申越されたい、と相談係が云つたどれ話し下さい大丈夫れ止めです、新聞の威力は此所に存する、所天を威嚇すると云ふことは好ましくは無からうが善事であるまいか一家の風紀を維持する上のみではなく間接社會の風紀を肅正する一助ともなる決して御遠慮に及ばぬ（係）

◎**太平町の秋本君** 君の相談の書面小使の粗漏より他方面の書面に紛れ込ませし爲め存外遲延せしが申込まれたる通り紙上に發表差し間へなきか猶住所は依然同所なりや返事なければ差し間へなきものと見る（係）

●悲劇 摘翠樓の亡魂（一）
▲登場俳優男三名女一名

色火をパット燃やしてドロノ\／＼の風音で幕開き、一面暗黑の座敷、佛間を透かしにして男の亡靈ボンヤリと舞臺に移る、座敷の眞中にオリヨウの寢姿暗黑の裡に見ゆ

亡靈「オリヨウ／＼、俺れは蜂之進だ眼を醒まさぬか」

リヨウ「ハイ／＼旦那樣ですか」

と蒲團をがばと跳ね除け平伏す

亡靈「四十九日が其の間は魂此家を離れずと云ふ事は本願寺樣のれ說敎で聞いて居た光もだれは名僧智識の引導を受けた人でもだ、然るに俺れが死んでからはモー何日だ忘れもせぬ去年九月九日の夜新築家屋の材料買入の爲め日本へ渡り下關で急病に罹り果敢くなつた事を……其れに一年も經つ今日迄弔ひの一つもせぬではないか、其れにまだ／＼た前は普請がヤット出來上るか否や、俺れが死んだ事や金策の苦勞は打ち忘れて現在の弟と浮名を立てたり、まだ／＼其れのみならず役者を朝夕引き付けて鋤燒の突き食ひとは何事か何で是が浮かまれると思ふか」

キャッと魂消す悲鳴と共にリヨウは殆ど半死の有樣で蒲團を掴んで藻掻いて居る（つゞく）

●韓國と日本の戀
▲我から好んでモデル

去る四十一年十一月中美術研究を志して日本に渡航したる韓國京城中部典洞四十七番十戶朴鎭榮（三十）は行李を東京下谷仲徒士町四相模屋事五味孝吉方に卸して上野美術學校に入學し初の中は眞面目に通學し居たれど遂には學校へも鎌々出ず下宿にわうて女中の臀など附け廻り居りしも此の男大の菊石面なれば誰れとて相手にせざりしが生かじりの日本語を使ふ所が可愛らしと主人孝吉と妻ひさとの間に生れし長女きよ（十六）とて家より程遠からぬ某女學校に通ひ居る肩上げも取れぬ少女が大に同情し朴もきよ子が一寸澁皮もむけ胸をつき出したるれ茶の水式なる所に憎からず思ひ込み繪畫を敎へて日本語を習ふとの口實の下に巳が室に呼び入れて眞のモデルの研究を始めたるが積る口說の數々はうす／＼親の耳にも入りし事とて長くも下宿もし兼遂に本年三月頃戀人を後に神田錦町三常陽館へと引き移りしがきよ子は獨り寂しく學校さても氣に乘らず兎角病氣にかこつけて休み勝ちに度々神田の朴が下宿を訪ふては盡きぬ思ひを打ち明けるが何よりの樂みとし遂には定りの夫婦約束迄も取りかはし「若しも貴方が歸國するなら私の望みはないから死でしもう」てふ手紙にて流石は朴も歸り兼ね絕ゑず胸をこがしつゝありしが遂に都合上歸國せねばならざる破目になり此七月十二日夏期休業を幸ひとして歸國したれど改めて九月中旬出京の上は日韓同盟の新家庭を形成せんとてきよ子も待ち遠き樂みを待ちつゝあり朴が歸國の當日には無論きよ子にも入場劵を持ちて新橋プラットホームに表れたれど別れ兼ねては二度迄も下宿に立ち歸り遂に翌日に日延べせし程なりとハテサテ緣は異なものれつなもの

●日韓車挽の爭論

龍山桃山町安達菓子商方雇人山本勇三郎（三二）は八日午後四時四十五分頃南大門通市場を南大門方面へ菓子車を挽き行かんとする折柄其の後より西部新草里居住張雲伯（四七）が牛車を挽き來り山本の右側より之を拔きて先きに出でんと一鞭與れたるに牛は忽ち驚き車を左右に振りたる爲め車輪はメチャ／＼に破損したるより山本は張に對し損害を要求せしに應せざるより既に鐵拳の雨降り出さんとせしが幸ひ派出所の巡査が之を聞き付け出張南署へ兩人を同行して取調べたるに山本は前記の如く申立つるも張の申立は却て張の後方より來り己の勞を安めんとし車の梶棒を張の牛車に持たせて行く內牛が何物にか驚きなるものなれば辨償の義務なしとの事に其の際現場にわりて始終を目擊せる魚や德永某を召喚して取調べたるに全く張の申立は虛僞なりと判明し說諭の上金三十錢の損害を出して事濟みたりと

●短銃强賊の罪狀

仁川署有馬部長が去る七日逮捕したる短銃所持の强賊大木淺一（二四）は其の後仁川署にて取調をなし居たるが此程自白したる所に由れば淺一は去月末門司より釜山に渡り夫れより龍山を經て去る二日仁川に來り四日の午後一時山根町民役所舍宅內堀米茂雄方の留守宅に忍び入り絹張女洋傘（七圓）茶色男帶（五圓）インバチス（十三圓）黑深靴（八圓）を窃取し午後二時頃寺町二丁目田畑爲方に入り込み米澤綿入（十圓）支那緞子（六圓八十錢）を盜み其の足にて本町中嶋質店に至り岡本輝一と僞名して帶インバチスを二圓五十錢に新町松浦質店にて支那緞子米澤綿入を二圓に入質し其の金を以て敷島に入り込みたることを自白したる由なるが尙同人は前科三犯の有名なる箱乘りなれば目下嚴重取調中

◎江戸調情歌　うろ子

△蟲

主は此ごろ樣子がくさば　かげで突つく虫がゐる

戀のみちしば未ふみ馴ぬ　虫にも遠慮をしのぶ夜

弔ふ人さへなく虫のこゑ　哀れ野末の捨て案山子

ぬしは妾にもうあきの風　悲や緣さへきり／＼す

獨くよ／＼思案につきの　夜半にさびしい虫の聲

●色餓鬼と消費高

仁川敷島遊廓先月中の遊蕩客及び揚高左の如し

樓名	遊蕩費揚高	登樓客數
一山樓	一〇七六、七三	二四一
第二敷島	八六二、五四	二一四
朝日樓	七七六、四五	一八四
第二朝日	五四四、五七	一五五
日進樓	五四四、一七	一二三
吾妻樓	四三七、〇六	一一二
高砂樓	三八六、九七	二一四
敷島樓	二二四、九五	四二
合計	四八五三、四四	一二八五

●擒軍を連て泥棒

去る八日午後九時頃南大門外漢城共同倉庫株式會社材木置場番人廣島縣平民松浦杉太郎は鹿兒島縣平民下井金太郎（四七）と擒軍三名を引連れ同場に置きある松材三本を窃取して擒軍に擔はせ何れへか運び去らんとする處を取り押へ南部署へ引致取調べ中なりと本月七日以來同處に置きわりしトタン浪板七十枚及雜品數點盜難に罹りたる旨屆け出しと云へば皆此奴等の仕業ならんと云ふ

●車夫巡査に反抗

本町一丁目別府組轎子兵庫縣加西郡富合村字別府四十三番戶別府信（十九）は去る八日南大門停車場構內へ人力車を輓き來り場外に駐車し居るを同驛詰巡査が之を認め一定の場所に整頓すべく注意を加へたるに別府は之に應ぜざるのみならず巡査の頬及胸邊を毆打する等暴行を逞ふするに止まなく引致取調べ中なりと

●有明樓の新妓

石川縣金澤市裏傳馬町五十六番地平民戶主松寺こと（三十）は鄉里金澤及び東京日本橋區芳町にて十餘年間左褄を取りしものなるが今度當地有明樓の抱となり妻勇と名乘り今晚より御召に應ず可と

●コッケー

（九月號定期增刊）は其裝は有名なるサンデーの姿を以て現はれ來る其內容はサンデーの如く堅くるしからず多くは社會的記事にして風紀矯正に向て殆ど全力を注げるもの如く暗黑なる漢城貴婦人問題不義の財產等皆此主意に基けるものあらむ社會風紀の矯正には少からず效力あるべし今少しく記事材料の撰擇に心を用ふるに至らば優に漢城風敎の警鐘たらんか（發賣所京城本町六丁目滑稽新聞社）

演藝

▲歌舞伎座　彰義隊愛澤一座本日の替りは『男一匹』全十一場にして役割左の如し

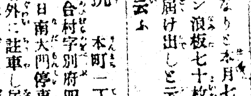
乳母たさく（西井）井上次郎　原田妻白々子　桂（木）井上次郎、醫師扇田秀（河野）刑事奥田六二（川上）山岡金之助　警部松村勉（角村）令孃花子（中村）書生春野甚吉（大和）益田榮造、山岡金左衛門（松村）巡査田所久哉（天草）門弟山本（栗島）子守たま　木村）書生吉本豐（三島）刑事部長大川進、毛蟲源太（美崎）兒分長吉（忍）金之助兒分留公、巡査井上太郎（篠崎）刑事原田敏夫（愛澤）

吉凶鏡
本町五丁目　三一館判斷

九月十日舊七月廿六日六白友引祭酉たつ

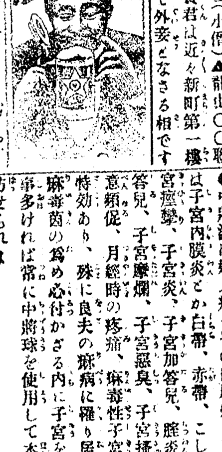
△一白●　生氣日にして利通の日なり進で吉商略上に於ては進取より守成に利あり△二黑●　平穩無事舊常舊產を守るによし企圖色情及亂倫の交情を戒しむ△三碧●　計畫齟齬不通夫妻間爭端起らんとす他人より强談苦說を受くるあり防ぐべし△四綠●　誠實なれば親しき友を得べし未成の事業は完成に近づくの日なり△五黃●　勤土建築宜ろし其外平穩なり△六白●　近親間に世話事心痛事あり病傷戒しむべし△七赤●　談判裁判出願請願等大々凶其外吉△八白●　已れの憶斷より人を咎疑するあり散財多き日とす△九紫●　險難の日とす他人の誘引勸獎に乘することなかれ創始改の事あしゝ

右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接同館の鑑定を請はる可し



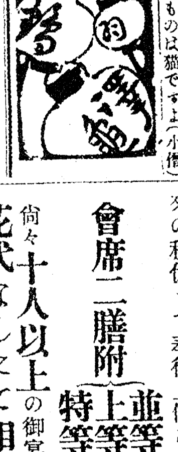
◀平民文庫▶

▲時刻は八日の夜十二時を過ぐる三十分、所は本町辻屋の前通り、降りる夜露が身に寄さば此の世を忍び托け言は他の目關笠と日除母衣深う下した人力車一輛鬼鹿毛が韋陀天に追ひかけられた樣、西へ向つて飛ぶは飛ぶは▲姿は闇に包まれて振り照さるゝ提灯の光りか恰然淵に陷つたぼふづきの揉まれ／＼て流るゝ樣强か掛けし香水の馨りに乘つた客人の傑も偲ふに敢て難くはない▲仰も此の車上の客を誰れとかなす▲判らん誰だと問ひ給ふか、然らば答へん此れこそは京城なりやこそ藝者でござると云つて居られる摘翠樓の秀子である▲彼れが先月中檢の席順に於て小結の格に陞つた理由は十二時過ぎの外泊を勉强するに因ると申す湯殿の中での陰口は噓ぢや御座らぬ事實也▲新町遊廓の振はんのは秀子の樣な勉强家が御座るが故で御座るので御座るのも事實也▲同じ秀子の提灯持ちを致しまするは（係り）▲寃加な奴は秀子ぢや哩（小僧）▲龍山〇〇聯隊本部の後藤〇つ殿貴君は近々新町第一樓支店の右近を身受して外妾となさる相です



が彼れには大事の大事の好さんが蔭に付て居ます欺されぬ樣御用心なさい內幕の魂膽を知りたければ詳細知らせましよう（君の友人）▲皆春樓小勝の腕前賞見生よ委細投書せられよ文飾は不必要だから有りの儘に（係）▲朝歸りの〇〇子に與ふ『底拂ふ縞の財布や朝寒み』（不渦）▲朝鮮日々の仁川病院の亂脈なる記事中に見へた日進樓の十郞は平常自慢して曰く妾を檢査した醫者さんで妾い所へれ出にならない方は一人も御座ませんよ、と全体何うした譯だらう（不審生）▲私の家には鼠が多くて困りますが何うか出ない工夫はないでしょうか寢て居ると顏の上でトンボ返りを打つ鼠の嫌ふもの御承知の方は本欄でれ知らせ下さい（溫突生）▲鼠の嫌いなものは猫ですよ（小僧）

廣告



公告

一金百貳拾五圓也　京城居留民團立第二小學校へ

一金貳拾五圓也　行旅病者收容所へ

右ハ理學博士巨智部忠承殿ヨリ寄附相成候ニ付此段公告ス

明治四十二年九月九日

京城居留民團民長　熊谷賴太郎

